

## 令和4年度 第1回大口町保育所運営委員会 会議録

開催日時	令和4年7月7日（木）午後1時30分より
開催場所	健康文化センター 1階 多目的室
出席者名	議会議員代表 3名 民生委員・児童委員代表 3名 私立保育園法人代表 1名 保護者代表 8名 事務局 9名
次 第	1 委員長挨拶 2 自己紹介 3 協議事項 (1) 令和4年度保育所運営費の概要について（資料No. 1） (2) 新型コロナウイルス感染症について (3) 令和4年度の保育所運営について ・園児数（資料No. 2） ・年間計画（資料No. 3-1～3-5） (4) 各保育園の取り組みについて 保育園パンフレット（資料No. 4-1～4-4） 4 その他

（進行：福祉こども課長）

委員長	1 委員長挨拶  2 自己紹介（紙面上にて確認）
-----	--------------------------------

（進行：委員長）

事務局	3 協議事項 (1) 令和4年度保育所運営費の概要について（資料No. 1）  支出総額：7億4,838万円 収入総額：1億8,392万3千円 差引額=町負担分：5億6,445万7千円 (支出について)
-----	--

- ・報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、旅費等職員に係る経費になる。言語療法等障がい児理学治療等の講師報償が子育て支援事業から保育園運営事業に移設したことにより、例年と比べ報償費が増額計上となっている。
- ・役務費について主なものとして、保育士の人材確保を目的に、人材紹介を利用して保育士採用を予定しており、採用となった場合には推定年収に紹介手数料を乗じた手数料を支払うために計上している。今年度、既に2名の採用を決定している。
- ・委託料について主なものとして、社会福祉法人 宝光福祉会が運営している大口中保育園に対し、国で定められた人件費や運営に係る事業費や管理費を支払うための民間保育所運営費委託料、新たなものとして、各保育園にある調理室から排出される排水に含まれる油脂分、残飯等が汚水管内に流入して配管を詰まらせないよう油脂分と水分を分離させる機能を果たすグリストラップの定期的な清掃を行う委託料が計上されている。
- ・工事請負費については、南保育園および西保育園の空調設備の老朽化に伴い新たに設置するための工事となっている。
- ・負担金補助及び交付金について主なものとして、大口中保育園の人件費に対し、委託料で賄いきれない部分を補助する民間保育所補助金、また新たなものとして、保育士等の処遇改善のため、令和4年2月から9月まで収入を3%程度引き上げるための措置を実施することを目的とする保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業費補助金がある。

(収入について)

- ・主なものとして幼児教育無償化や大口中保育園に係る経費や工事費の補助等国・県からの歳入が9,092万7千円、保護者の皆様にお支払いいただいている保育料が6,750万5千円、延長保育を利用される方が支払う延長保育料や年少児以上の方が支払う給食の副食代等が2,549万1千円となっている。
- ・一人あたりの費用額は、令和4年4月1日現在の園児数を基に年間利用延べ人数をだし、支出総額を延べ人数で割ったもので、1人当たりが100,588円となり、そのうち町負担分が75,867円で全体の75.4%を占めている。また、保護者の皆様にお支払いいただく保育料が9,073円で全体の9%となっている。令和元年度10月より始まった幼児教育保育無償化に伴い、保護者の皆様の負担が減り、町負担が増えた傾向が今年度においてもでている。

保育長

副食代については、昨今の物価高騰への対策として、公立保育園は、コロナ交付金を使って対応をする。大口中保育園は愛知県の補助制度を使って、愛知県と大口町で補助をする。令和4年度については、保護者のみなさんの増

	額はない。
議会議員代表	休日保育とは、土曜日、日曜日の保育のことか。
保育長	休日保育は、日曜日と祝日の保育である。 土曜日の保育は通常保育という枠に入る。
議会議員代表	副食代とか物価高騰の話がでたが、野菜等の大口町の地産地消の物はあるのか。
保育長	大口中保育園を含め、保育園はそれぞれ畑を持っている。地域の方の指導の下で子ども達と栽培活動を行っている。収穫した野菜を給食に入れて自分たちで育てた野菜を食べるということで 地産地消という形になっている。 小松菜は、町内の MODS (モッズ) グリーンファームから購入している。
議会議員代表	業者と大口町の物を使うとなると、年間計画の中でバランスを考えなくてはならないと思うがどうか。
保育長	管理栄養士が業者を把握しており、年間の計画を立てて発注を行っている。
議会議員代表	野菜以外には大口産の物は何があるか。
保育長	主なものは、野菜である。 そのほか、米を大口町の業者から購入している。 麦茶は福玉米粒麦から購入している。
保育長	(2) 新型コロナウイルス感染症に伴う対応について  コロナ禍になり3年目を迎える。現在リバウンド傾向にあるところだが、コロナ対応については、その時々状況に合わせ、国の指針等に基づき、行っている。 (現時点での対応) ・ 保育園は基本開所するという方針に変わりはないが、状況によっては休園やクラス閉鎖で対応している。 ・ 園児のマスク着用については、案内を配布させていただいた通りである。 ・ 熱中症には十分気を付けて保育を行っている。

私立保育園  
法人代表

- ・何度も言葉にさせていただいているが、新しい生活様式のもと、密集密接を避け、参観いただく活動や地域との交流、日々の保育活動など少しずつ広げていけたらと思っている。
- ・まだこの先のことはわからないので、園内での保育士含め大人のマスク着用、丁寧な手洗い、こまめな消毒など、基本的なことは継続していく。
- ・引き続きのご理解ご協力をいただきながら、一緒に感染予防に努めていただきたい。

大口中保育園と宝光福祉会は、豊橋、蒲郡で運営している。

(豊橋について)

- ・爆発的に増えた時に保護者の過剰反応があった。また、園で感染者が発生した時、発生したことに對する父兄の反応は過激であり厳しい状況にさらされ問題となった。
- ・市議会、市役所に行動方針をいただいた。園の対応としては検温、消毒、マスクの着用というごく普通の事を粛々に行った。
- ・2020年、発表会や運動会は中止、規模を縮小して実施した。
- ・園内での発生はなかったが、家庭内での発生があった。
- ・豊橋全体としては、2021年はコロナが発生した際、市役所や保健所に連絡、連携が大変だった。
- ・ワクチン接種3回目が終わりコロナが落ち着いてきた時、市役所の方からもらった連絡票に記入して電話連絡をした。資料が必要な場合もあった。園は大変だったが、それ以上に市役所や保健所は大変だった。
- ・最新の情報として、2022年5月に、コロナの感染者が園であった場合、換気等の感染対策を徹底している場合は継続して開園することが決定した。感染がひどい場合、集団で急激で大規模な感染が見られた場合は臨時の休園はある。通常にかかったくらいなら休園は行わないことになった。

(蒲郡について)

- ・3年前にコロナが発生し始めて、不安が非常に大きくなった時、年間60数万円と予算が余分にかかったが、バイオプロテクトという設備をジャクエツという業者から勧められて導入した。廊下から保育室等館内全部に消毒と換気を一緒に行った。導入したことで、コロナだけではなく、ノロ、インフルエンザ等の感染症が抑えられた。費用はかかったが、効果はあった。費用のかからないこととして、タオル持参からペーパータオル使用に変えた。蒲郡全体で事前に申し合わせをしての保健所からの指導であり、感染症は減った。これは費用がかからなかった。

北保育園 父母の会会長	<p>ペーパータオルはいいと思う。我が子は、未満児と年長児である。未満児はループタオルを使用しているが自分のものと他人のものが区別できないと、間違えて使用する可能性が0ではない。ペーパータオルであれば感染を防げる。マスクをするかしないかということで、意向調査をもらったが、私はマスクをしてほしい。自分は病院で働いている。園には仕事をしている方たちの子がいる。感染したら病院に迷惑が掛かる。濃厚接触者でも同じである。換気をして、マスクもしてほしい。</p>
南保育園 父母の会会長	<p>濃厚接触者の話だが、南保育園は何度か休園になったり、クラス閉鎖があった。その時の対応は、メールが届き子どもの引き取りを促された。濃厚接触者について保育士に尋ねると、「お答えできません、保健所から連絡がいくと思うのでそこで判断してください」と言われた。働いていると、子どもが濃厚接触者になると出勤できなくなる。守秘義務もわかるが、誹謗中傷等そのような風潮はないと思うのでせめて濃厚接触者は、その場で教えてほしい。対応を変えていただきたい。</p>
保育長	<p>最初の頃は、対応に困った。コロナと聞いただけでも引いてしまうような流れであり、人権に配慮した対応をした。そのような意見や指摘をもらったのでその後、濃厚接触者の方には個別に連絡を差し上げるという対応に変わった。考え方やコロナに対する自分たちの向かい方も変わってきていると思う。迷惑をかけないように一人一人の人権を守りつつ対応していきたい。</p>
健康福祉部長	<p>南保育園が休園となった時、役所も混乱をしていた。濃厚接触者の特定は、保健所も混乱している時期、連絡がつかない状況で保護者の皆様ももどかしい思いをされた。自分たちも、濃厚接触者の特定に悩ましい状況であった。今は、対応が変わってきている。コロナの種類も変わってきた。重症化しやすいものではなく、軽いものになってきている。濃厚接触者の特定は、保育園の方から保健所へ連絡していくので、当初ほど迷惑をかけることはないかと思う。ただ、この先コロナがどうなるのかはわからない。種類が変わっていった時には、国、保健所の対応がまた変わるかもしれない。自分たちも園は閉めないと思ってやっているが、またご意見や理解をいただきたい。</p>
西保育園 父母の会会長	<p>西保育園は4月当初クラスター程に発生した。いかに感染しないようにするかになってくる。職員は、忙しい中消毒作業をしている。消毒作業をすることで子どもたちへの目が行き届かなくなる。消毒作業は大事だが、子どもの対応が疎かになるのはどうかと思う。子どもが触ったもの一つ一つをすべて消</p>

健康福祉部長	<p>毒できているかといったらそこは疑ってしまう。職員が忙しい中で一つ一つのおもちゃを、1冊1冊の本を細かく消毒するのは不可能なのはわかっている。であれば、中保育園の理事長さんがおっしゃっていたように、空気清浄機を導入したり、殺菌・除菌効果がある対応ができるように前向きに検討いただきたい。導入に費用を当ててほしい。機械に頼ることも必要、そちらに費用をさいてほしい。</p> <p>園には空気清浄機がある。コロナが始まった頃、国の補助金で購入した。園内の保育室はじめ方々に置いてある。西保育園と北保育園は回廊があり、空気の入れ替えという面では常に開放しているので逆にエアコン代が心配である。南保育園は窓を開けて換気はしている。立派な機械の導入はできないが心がけてはいる。殺菌庫も導入してある。大きい物は入らないが、入る物は殺菌している。園にあるので見てほしい。</p> <p>(3)「令和4年度保育所運営について」</p>
保育長	<p>・園児数の説明(資料No. 2)</p> <p>令和4年6月1日現在の園児数は、定員790名のところ、649名が在籍している。内訳として、南保育園116名で8クラス、西保育園200名で11クラス、北保育園179名で9クラス、大口中保育園154名で9クラスで運営をしている。今後、育児休業明けで仕事復帰をされる方など、途中入所のお子様を22名お預かりする予定になっており、合わせて、年度内671名の園児数になる予定である。転入や就労でお問い合わせいただいたお子様についても、毎月の入園審査会を経て、保育の必要性を認定し、入園案内をさせていただく。また、4年度は、南保育園の定員を145名から140名に、大口中保育園の定員を170名から175名に変更した。</p> <p>職員数については、南保育園は30名、西保育園は50名、北保育園は41名、大口中保育園は39名で保育を行っている。園長、副園長、クラス担任保育士の他に、加配保育士、週休・休憩対応などの保育士、調理員、管理栄養士、看護師、事務員も必要に応じて配置しており、大勢の専門職員で大切な皆様をお預かりしている。保育士の配置は、途中入所児を含む園児数に対しての配置となっている。</p> <p>・「年間計画」の説明(資料NO. 3-1)</p> <p>入園進級式でお配りした「ことしのあゆみ」に、主たる行事が載せてある。行事は、「発表」ではなく、あくまで保育活動の一環として行う。お子様の様</p>

	<p>子を見ていただき、一緒に成長発達を喜び合う機会としたいと思っている。保護者参加の行事は、しるしがつけてある。中段に「クラス名」「帽子の色」、右側に「園生活の1日の流れ」を載せてあるので参考にさせていただきたい。下段には、「毎日家庭で行える子育て3か条」を入れさせていただいた。これは学校用の子育て10か条をもとに、(平成27年度に)保育士と幼稚園教諭で作成した。「子どもに笑顔であいさつをし」「子どもの目を見て会話をし」「子どもとたくさんスキンシップをはかり」、家庭と保育園とが手を取り合い、一緒に子育てに取り組んでいきたいと考えている。身近においでいただきたく、今回は「あゆみ」の中に入れさせていただいたので、ふとしたときに見ていただけると嬉しく思う。</p> <p>・各保育園別の年間計画(資料No.3-2から3-5) 月別に書いてある。配布が遅くなり大変申し訳ないが、この年間計画は、保護者のみなさん全員にお渡しするので、ご予約等を立てるときにお使いいただきたい。ただし、今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、中止や変更もあるということをご理解いただきたい。</p>
議会議員代表	行事の中止、変更等の決定権はどこにあるのか
保育長	できる限り予定通り進めていきたいと思っている。難しい決断だと思う。緊急事態宣言が出され行動制限されるような指示があった場合、部長、課長、保育長、園長、保健所、園医、健康生きがい課、保健師等広く相談をしながら保育園の管轄で決定していく。
議会議員代表	<p>全く悩ましい問題である。できるだけいろいろなイベントは開催していただきたい。保護者たちも安心する。</p> <p>3歳未満児の入所が増えているのか。その対応は問題ないか。</p>
保育長	園児が増えれば職員配置や部屋の面積等を考慮しながら入所に向けての準備をしていく。
議会議員代表	待機児童についての心配はないか。
保育長	心配がないわけではないが、今のところは入所の準備は整っている。この先は、退所のお子さんと差し引きしながらやっていければと思う。

南保育園園長

・各保育園の取り組みについて

南保育園（資料No.4-1）

南保育園は、7月現在3歳未満児37名、3歳以上児80名、合計117名のお子さんをお預かりしている。

園の周りは田畑に囲まれ、田植えや稲刈りなどの四季折々の風景がよく見える。また、キジやサギを身近で見ることができるなど、自然環境にとっても恵まれている。保育目標「豊かな心と丈夫なからだでよく遊ぶ子ども」を基に、大勢の友達と集団で過ごす中で互いに育ち合える場として、また、子ども一人一人の気持ちに寄り添い、様々な体験を通して豊かな心を育む保育を目指している。

南保育園では、SDGs 持続可能な開発目標の17のゴールのうち、No.4「質の高い教育をみんなに」とNo.11「住み続けられるまちづくりを」、No.17「パートナーシップで目標を達成しよう」の3つの目標に向かって取り組んでいる。今年度は「園周辺の自然や自分たちの住んでいる地域の良さを知り、人や町に親しみをもつ」ことを目標にして、園外散歩に出かけ、園周辺の歴史文化財や名所を見たり触れたりしている。大口町の南部地域にまつわる話を、歴史民俗資料館の学芸員の方に聞き、実際に現地に出かけたりする活動を毎年行ってもらっている。また、園周辺の農道を散策しながら、草花で遊んだり、散歩マップを作成したり、豊かな自然にたくさん触れて、子どもたちの好奇心や興味が膨らむような取り組みを行っている。コロナ禍でできなかった地域交流や、保護者による絵本の読み聞かせも少しずつ始めることができるようになってきた。保護者や地域の人と一緒に活動を進めていきたいと思う。

日頃の保育活動の中で、広い園庭を走ったり、ジャングルジム、登り棒、滑り台、八角塔、雲梯、鉄棒、パンプリング、ブランコなど、沢山ある固定遊具で伸び伸び遊ぶ中で、年齢に応じた体と心の豊かさを育てていきたいと考えている。遊具を使って「登る」「滑り降りる」「ぶら下がる」「乗り越える」「揺れる」という様々な動きを経験する中で、バランス感覚が養われ、挑戦する心が育っていく。「一人でできた」という達成感、充実感を味わい、自信に繋げていきたい。

南食育サポートの方との『食育交流事業』もご指導をいただきながら、引き続き行っている。先日もじゃがいも掘りやさつまいもの苗植えを年長・年中児が体験し、年少児が見学に来て、歓声を上げていた。今は、夏野菜が食べ頃で、子どもたちがはさみを手にして畑にでかけて収穫してくる。収穫できた野菜を給食の食材に取り入れ「食べる喜び」「人や物への感謝」の気持ちを育てていきたいと考えている。

西保育園園長

西保育園（資料No.4-2）

町立西保育園は、7月7日現在で、3歳未満児67名、3歳以上児137名合計204名の子どもたちをお預かりしている。

今年度が始まって3か月が過ぎ、4月当初は、新型コロナウイルスの感染が広がり、休園やクラス閉鎖等ご迷惑をおかけした。今はコロナに加えて、熱中症の心配もあるが、日々子どもたちの声が園舎内に響き渡り、賑やかな日々を送っている。

保育目標「豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子ども」を基に、一人一人の気持ちに寄り添い、様々な経験を通して豊かな心を育む保育を目指している。3歳未満児から5歳児の発達段階に応じたそれぞれの目標をたて、子どもが自ら興味や関心をもって環境に関わることを通して、チャレンジしたことへの充実感や満足感を味わい、年齢なりの心情、意欲、態度を養えるようにしていく。

SDGsを意識した保育活動については、昨年度から取り組み始めました。「食に対する感謝の気持ちを育み、給食の残食を減らす」を目標に掲げ、12番作る責任・使う責任に取り組んでいる。取り組み内容としては、子ども達とは「給食の残食0をめざそう」と、食事を楽しく残さず食べるようにしていく。保育園の畑での野菜の栽培や収穫体験を通して食べ物に関心を持てるようにしていく。子どもたちによる給食の放送、名付けて「給食Gs」と言うが、放送を通してつくったものを無駄なく使い、食べ物を大切にしようとする気持ちを育てていく。今年度は、子どもたちが園での活動の様子を保護者に伝えることや、給食サンプルを展示したり、残食量をお知らせすることで、保育園から家庭へフードロス削減の意識を繋げていきたいと思っている。

食育については、SDGsの取り組みを食育サポートの方々と一緒に行っていく。地域柄、土に触れる体験がないであろう子どもたちにとって、畑での体験は貴重なものになる。今は、夏野菜の収穫をしている。年長児が交代で毎朝収穫に出かけている。とれたての野菜はその日の給食にいれてもらい美味しくいただいている。食育サポートの方々と一緒に行っていくことで、食育サポートの方々にもフードロス削減に関心を持っていただきたいと思っている。

体力づくりについては、大小2つの山がある芝生の園庭や広くて長い回廊で、いろいろな運動遊びをしたり、園周辺の歩道橋の上り下り、散歩を経験していく中で、体幹を鍛え、柔軟な体をつくり、心身のたくましさを養っていく。

木育については、木造の未満児園舎や回廊があることで、木には親しみを感じている子どもたち。保育園周辺には、緑豊かな白山ふれあいの森があるので、散歩に出かけ、四季折々の木々に触れている。自然物を使った制作活動や

年中児では箸づくりを経験する。木で作る木で遊ぶ活動をすることで、物を大切に作る心等を育てていく。

地域交流は、地域のいろいろな方と交流しながら優しさ・思いやり・感謝の気持ちを育てていく。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、ここ2年はできていないが、今年度から徐々に再開していく方向で考えている。今日の七夕会には食育サポートの方をお招きすることができた。子ども達もサポートの方々も笑顔の中で過ごすことができた。

郷土愛活動については、余野地区にある「山姥物語」や「白山ふれあいの森の古墳群」について、歴史民俗資料館の学芸員さんをお招きして話をきいたり現地に行ったりする中で、郷土を知らせ想像力豊かな子どもたちを育てていく。このような取り組みで、住んでいる町への関心が愛着に繋がりこの先もずっと住み続けたい町にかわっていくことを期待している。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら、保育園と家庭と地域が手を取り合って子ども達を育てていきたいと思う。

北保育園園長

北保育園 (資料No.4-3)

北保育園は7月現在、3歳未満児60名、3歳以上児120名、合計180名の子ども達と一緒に生活をしている。新型コロナウイルスの感染が心配の中、6月からの急な暑さで、更に熱中症が心配となってきた。マスクを外す子も増えてきているが、着用している子もいるので、活動や子どもの様子に応じて外し、気をつけていきたいと思っている。

昨年度から取り組み始めたSDGsの取り組みでは「園舎を大切に作る」という目標を掲げ、SDGs12番の「つくる責任 つかう責任」と15番の「陸の豊かさを守ろう」を行っている。内容として、「つくる責任 つかう責任」では、建設していただいた園舎を、生活し使っている責任として、「傷んだところはなおす」という園舎のメンテナンスを行っている。回廊の外段差を子どもたちと一緒にきれいに磨き、紙やすりを掛けてなおしていく。「園舎を大切に作る」「いつまでも長く使う」という気持ちを持ちながら行っていく。今年度は「スーパーぴかぴか大作戦」と称し、木でできている机、椅子、柱などの痛んでいる所もなおしていくよう意識し、保護者の方や地域の方も一緒になって取り組めないかと考えている。「陸の豊かさを守ろう」では、山のない大口町がいろいろなつながりで山とのつながりを持つようになっていく。建設で木材をいただいたタイム技研さまとのつながり。年長児がタイム技研さま所有の山「21世紀創造の森」に遠足に出かけ、貴重な山の体験をさせていただいている。今後もつなげていきたいつながりだと思っている。園庭にある1本の桜の木、五条川の桜、そして町の花が桜であるという「大口町や桜のつなが

り」を子どもたちに伝えていく。それらのつながりから「山や木を知る」強い  
ては「樹、自然、命を大切にする」ということを目標に、取り組んでいきたい  
と思っている。どちらのSDGsも特別なことではなく、今まで行ってきた木育  
をSDGsに捉え直したもの。無理をせず自分たちのできることを行っていき  
たいと思っている。

木育では、SDGsの取り組みに加え、親子マイ箸づくりを行っていく。保護  
者の方にも木に触れ、共に木育を行っていききたいと思う。

食育では、地域の方と一緒に畑で野菜を育て、収穫し給食に取り入れている。  
「育てる」「収穫する」「食べる」という農と食の体験を通して「育てる  
ことの大変さ」「収穫の喜び」「野菜をいただくことへの感謝」など子ども  
たちの豊かな心と生きる力につながるよう取り組んでいる。

園庭体力作りでは、芝生園庭で、体を十分に動かす「全身運動」、走ったり  
跳んだりして「足腰を鍛える」ことを目標に子ども達の体力作りに取り組んで  
いく。、固定遊具がなくて心配される手や腕を使うこと（握る、引っ張る、支  
える、押すなど）も、広い回廊や室内を有意義に使い、遊び方を工夫しながら、  
意識して取り組んでいく。年長児は、毎日回廊の雑巾がけを行い、手、足、体  
幹を鍛えている。

地域交流では、人を思いやる優しい心、人に親しむ心が育つことをねらいと  
して行っている。今年度も感染対策を考えながら実施方法を工夫して取り組  
んでいる。いちご畑でのいちご狩り、カモミール畑での花摘み、夏野菜の苗植  
え、野菜の収穫などが地域の方と行え、交流が持てている。北保育園ふれあい  
交流会の方とは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2年間交流をする  
ことができなかったが本日、2年ぶりにやっと七夕会にご招待することがで  
き、七夕会の様子や年長児の歌、ハンドベルなどの様子を見ていただいた。園  
児とのふれあいは行えなかったが、保育園に来ていただけたことが本当に嬉  
しく、早くコロナが落ち着いてくれることを願うばかりである。

今後も新型コロナウイルスの感染状況を視野に入れながら、できる方法を  
考え、子どもたちと地域、保護者、保育園がつながり、一緒になって子ども  
を育てていく「子どもを真ん中においたまちづくり」を目指していきたく思っ  
ている。

大口中保育園  
園長

宝光福祉会大口中保育園（資料No.4-4）

令和4年度7月1日現在、大口中保育園では3歳以上児116名、3歳未  
満児40名合計156名の園児さんをお預かりしている。職員は、看護師・調  
理員を含め計39名。

保育目標に「豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子ども」を掲げ、私たちが考え

る豊かな心とは自分のありのままの姿を認めてもらうことで安心し、見たことや考えを自由にイメージでき、素直に伝えたり行動に移せる子どもたちになるよう保育を行っている。

主な年間行事だが、一番大きく変わったところは行事の取り組み方。運動会や発表会などの保護者の方にも参加してもらうイベントから、子どもたちに伝統や季節の移り変わりを伝える行事まで、月ごとに季節にちなんだ様々な行事を企画している。行事の多くは、子どもたちの声を聞き、子どもたち自身のやりたいことを実現させたものにしたいと考えている。コロナ禍でも、なるべく大きな集団を作らないことを前提に今年度は、3年次の縦割りグループ2チーム作り、異年齢で行事に参加できるよう保育計画を立てた。また、大口中保育園の周囲には、五条川遊歩道、小口城址公園・多世代が集う憩い広場など、近くに自然が豊富にある。園では主に、午前中の晴れた日には、0歳児から全園児積極的に散歩に出かけ、自然に触れたり、戸外遊びを楽しんでおり積極的に自然に触れる機会を作っている。

保育形態として、「遊びの中からの学び」を保育の柱として、一人ひとりの主体性を大切にする保育を行っている。コーナー遊び、「遊びのミュージアム」の紹介とあるが、子ども達が主体的に生活でき、自分からやりたいことを見つけ、意欲的に取り組むことができるように保育室や園庭に色々なコーナーを設置し、自分で活動を選べるように工夫している。子どもの成長、発達、やりたいことに合わせた活動の見守りを重視しながら子ども達と関わっていく。

大口中保育園の一番の特色は、体力作りである。年齢の発達に合わせて、毎朝のサーキット遊びや体育専門の講師による運動遊びを取り入れ、健康な身体作りと体を動かす楽しさを味わう。「やってみたい」「できるようになりたい」と思えるように導き、「できた」という達成感・満足感を自信へと繋げていく。運動は苦手だな…と感じる事がないような取り組みや言葉掛けに配慮し、誰でも楽しく参加できるようにしている。可動式の遊具を取り入れ、戸外はもちろん、室内でも数台の鉄棒・平均台・跳び箱などを組み合わせ、様々な運動遊びを楽しんでいる。手にはがんばりまめをいっぱい作りながら自分なりの目標を持ち挑戦している園児も多い。体操教室の他に、夏はプール教室・秋冬にはサッカー教室も体験できる。

食育について、食べることは生きることの基本である。まずは「楽しく食べること」が大切だと考えている。季節の食材に触れること、料理を作る人と関わることなどを通して、食への関心を高める活動も行う。苦手な食材がある子

もいるが、自分で食べる量を自分で決めることで、残すことなく完食できたことに満足感を味わい、食べる量を増やしていつている。保育園の園庭では、年長児が一人一鉢プチトマトを育てている。保護者の方にも一緒に生長を楽しんで頂いている。年少・年中児もプランターで夏野菜を育てており、ピーマン・インゲン・ナスなど収穫を楽しんでいる。畑では父母の会の方にもご協力を頂き、いちごの栽培をし、いちご狩りも楽しめた。6月にさつま芋の苗植えをし、10月の収穫を楽しみに水やりや草取りなどの世話を頑張っている。収穫した野菜を使ってクッキングなども計画をしている。

さまざまな活動を通して、地域の方々と交流を行っている。特に民生委員の方によるあいさつ運動では、回数を重ねる事に親しみを持ってあいさつしたり、中には近況報告をする園児も増え、ふれあいの場を設けることで、支えあう地域づくりを学び、思いやりの気持ちを育てている。

食育の一環として、和菓子作りを行っている。和菓子作りを通して、日本の文化に触れ、和菓子の形や材料などにも興味を持つことができるきっかけになればと計画した。

その他の事業として、一時預かり保育を行っている。今年度は、6月までの3カ月間で延べ210人のお子様の利用があった。理由は、保護者の方のリフレッシュが一番多く、他に就活や仕事、兄弟が療育機関に通園する為、などがある。

今後も保育室内の換気や手洗い、飛沫感染防止、玩具・絵本などの消毒を行い、衛生管理につとめ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、安心して子どもたちが活動できる環境づくりを心がけていきたいと思う。

南保育園  
父母の会会長

南保育園 父母の会の取り組み

- ・6月に父母の会主催お楽しみ会で消防車来園。消防車に乗せてもらい、防火服を着用した。
- ・年7回の予定で、父母の会が希望者を募り保護者で読み聞かせを行う予定である。15時15分から15分程度の読み聞かせである。
- ・父母の会役員で、救命講習を受講する予定である。
- ・後半にもう一度、父母の会主催のお楽しみ会を計画したい。

西保育園  
父母の会会長

西保育園 父母の会の取り組み

- ・写真販売に向けて写真撮影を始めている。写真撮影は12月まで毎月1回

<p>北保育園 父母の会会長</p>	<p>は行いたいと思っている。写真販売は、販売アプリの導入をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お楽しみ会の開催を11月頃に予定。現段階では、忍者を予定。他に企業によるイベント（例：ミスド）や、職業体験的なことができたり、観劇等考えている。</li> <li>・園児に運動会をはじめイベント等にプレゼントの準備。</li> </ul> <p>北保育園 父母の会取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真販売を行う。すでに写真撮影は始めている。</li> <li>・イベントとしては、今のところ未定</li> <li>・8月にバローの夏まつりがあり、年長児が和太鼓披露をしていたが、今年度は中止。</li> <li>・運動会、クリスマス。進級・卒園でプレゼントの準備。プレゼント代を、写真代で賄いたいと思っている。</li> </ul>
<p>大口中保育園 父母の会会長</p>	<p>大口中保育園 父母の会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間通して畑の活動</li> <li>・数回の資源回収</li> <li>・イベント開催 東海テレビ「すくすくぼん」 愛知県交通安全教育「かけ橋」 フジテレビ「ハロー！どっこくん」を予定している。</li> <li>・制服の資源リサイクル</li> </ul>
<p>民生委員代表</p>	<p>父母の会の活動は、ここ1、2年程は活動が難しく、試行錯誤の中でということだと思う。今年度も子どもたちのためにと考えてくださっているが、役員の皆様はじめ保護者の方は働いており、お忙しい中で子どもたちのために活動しようとされている。負担のかからないように、無理のないようにしてほしい。楽しく、役員同士がつながりをもちながら活動してほしい。西保育園に挨拶運動に行くが、子どもたちがきちんと挨拶をしてくれる。元気をもらっている。「大口町の子は、大口町で育てる」そういう気持ちである。</p>
<p>民生委員代表</p>	<p>保護者は勿論、祖父母も子どもの写真なり、情報は知りたい。写真、ホームページ等でどんどん発信できるようにしてほしい。個人情報の問題もあるが。</p>
<p>議会議員代表</p>	<p>土曜保育の利用人数は。西保育園で集約してということだが、どれくらいの園児が利用しているのか。おおよその人数を教えてください。</p>

保育長	事前に申し込みをしていただくが、申し込みの段階で40名から50名弱ほど。当日の欠席等があるが大体その程度になる。
議会議員代表	SNS、メール配信で西保育園が雷の影響で電話が故障していると、また復旧に時間がかかると連絡がありましたが、今のところどうか。
保育長	午前中に工事が入って復旧した。運営委員会終了後、メール配信する。
副委員長	<p>4 その他</p> <p>3月、4月と園児のコロナ感染が広がり、想像もできないほどの苦勞をかけたかと思う。保護者、保育所、関係者の皆さま、本当にお疲れ様でした。町の挨拶運動を月1回、13年行っている。子どもたちが、笑顔で挨拶をしてくれることが本当に嬉しい。大口町の子どもは大口で育てるといった目標をもって取り組んでいきたい。</p>
健康福祉部長	閉会の挨拶